

子どもの権利条約

第13条 表現の自由・知る権利

第17条 適切な情報の入手

第28条 教育を受ける権利

知る権利

スペースの事業「ぼくのからだ わたしのからだ」に親子で参加してから、6才の娘が体の機能について質問することが多くなりました。例えば「なんでお母さんは血が出るの？お父さんも血が出るの？」と聞いたことがありました。女性の生理について興味を持ったようだったので、簡単に生理の仕組みや女性と男性の体の違いを話したり、体の絵本の中の子宮の図を見ながら親子で話をすることがありました。

ある時、家族の会話の中で私が生理中であることがわかり夫が「血が怖い」と言ったところ、それを聞いていた娘は「怖いことじゃないよ。私だっていつかなるんだから。」と言ったのです。

毎月私の体の中で起こっていることに興味を持ち親子で体の話をするうちに、娘自身がいつか自分にも起きることなんだと体の変化に見通しがつき、自分事になっていったようです。(矢田)



11月に、「はもりあカレッジ2022市民企画講座」で性教育についての講演会を開催しました。普段子どもと接するなかで「性教育」はハードルが高い、何から始めたらいいのかわからない、そもそも必要なの？と思うことはないでしょうか。子どもには「性について知る権利」があり、今月は市民企画講座で学んだことを中心に、性教育の目的や、高校生の現状を紹介します。そして「自分を大切にすること」について改めて考えました。

はもりあカレッジ2022市民企画講座

性を知ることは、生を知ること
本当の性教育って、なんだろう

講師 中谷奈央子さん
(元養護教諭、思春期保健相談士)

性教育ってなぜ必要なのか、そして身近なことだからできるヒントがたくさん！

● 性教育は、自分のからだは自分のもの
自分は大切な存在

と、子どもたちが思えるために必要。大人は「教えなきゃ！」と思わずに子どもと一緒に学んでいけばOK

オムツを変えるときに声をかけるだけでも、子どもが「自分のからだは自分のもの」と意識していくし、大人の側の意識も変わってくる。



● そして、何かあったときに

NO (いや！)
GO (逃げる)
TELL (話す)

と言える子どもになってほしいのです。

● 世界のスタンダードへ
包括的性教育

幅広いテーマを含む包括的性教育。ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」は、性教育の国際的な指針になっています。



日本では「性教育」というと、生理や妊娠など「生殖」に関することを教えると思う方が多いと思います。しかも、子どもたちが性について詳しく知ると性行動が早まるのではという不安から、学校では受精や妊娠は教えても、肝心のそこに至る過程＝性行為は教えないと決められています。子どもにとっては、肝心の性行為について教えられていないのに、性感染症や避妊だけ教えられても、自分事として捉えるのは難しいのではないのでしょうか。実際に高校生に性の知識を聞いた結果を見ると、正答率は高くありません。



海外でスタンダードになりつつある「包括的性教育」について調べると、日本の性教育で教えている「生殖」については、その中のほんの一部でしかないことがわかりました。「包括的性教育」は、身体について科学的に知ること、自分の身体を大切に、そうすることで自分も相手も大切にできるようになる。また性は自分のあり方や生き方に深く関係しているの、自分が主体的にどう生きるかという、人生の根幹に関わることだと感じました。(下村)

高校生の性知識 PILCON調査(2016)より抜粋

- Q 排卵(いつも)月経中に起こる(X) ...正答率 18%
- Q 月経中や安全日の性交なら妊娠しない(X) ...正答率 38%
- Q 精液がたまりすぎると体に悪影響がある(X) ...正答率 24%



私とスペース

岩田 美穂 さん



私がこどもスペース四日市と関わるようになって1年が立ちました。初めは中で何が行われているのか全く分かりませんでしたが、勇気を出して参加したアベックままんがきっかけでした。それから娘と一緒にプレイセンターに通い、スペースは私に様々な感情をもたらせてくれました。

子育ての悩みに共感してもらい涙を流したり、私では気づかなかった子どもの成長を発見してもらい驚いたり、子どもについて学び「なるほど！」と感心したり。そしてたまに居場所として遊びに行き、ぼーっとしたりもします。気がついたら「こどもスペース」はこどもだけの居場所ではなく、大人の私の居場所にもなっています。



今月の一冊

「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」



白鳥健二さんは、全盲の美術鑑賞家であり写真家。その白鳥さんを案内しつつアートと向き合うことで見えなかったものが見えてくるエピソードが詰まっています。いや、見えていたと思っていたのに、見えていなかったことに気が付くといったほうがいいかな。

「白鳥さん」という新しい窓を通して鮮明に見えてくるのは、目の前のアート作品だけでなく、世の中のこと、私自身のこと…。読み終わると、世界がちょっと違ってみえます。

一見分厚いですが、会話文が多くてサラッと読めます。忙しいあなたにこそ、おすすめの一冊です。(上田)

11月のスペース

土曜日の午後、比較的静かな時間を狙って入力作業をしていました。しばらく順調に進んでいたのですが、“あそぼーの”を終えた子どもたちが向こう側で何やら話し合っています。「ね～ あそぼーよ」と、いつもの光景です。

「まずは朝ご飯をつくりましょう！」家族になってる会話がほほえましく、とても様子が気になってしまいます。

次はお勉強！引き算です。「お墓に…」えっお墓なの？ ついつい聞き入ってしまいました。「みかんが4つお供えしてあります。泥棒が2つとっていきました。いくつあるでしょう？」「2つ！」「いいえ、通りかかった人が2つ置いていったので4つです」

子どもたちのやりとりが面白く、遊びを作り出す能力に感じます。またまた入力する手が止まってしまいました。

「はーい。次は外で遊びましょう」と、元気に外に飛び出し、夕日で赤く染まったデッキで子どもたちの遊びは延々と続いていました。

私の仕事は次に持ち越しです。(吉田)



*この欄は事務局のメンバーが交代で書きます。

はもりあカレッジ 参加者の感想

大谷麻美さん

性教育、2歳になったばかりの子にとってはまだ程遠い話だなと思っていましたが、今だから伝えてあげられる事、今後の成長過程で大切にしていかなければならない事が少し分かった気がします。

前半の話を聞いて、子どもがHelpを出せたり相談しやすい環境を作り、さり気なく教えられるようにしていきたいと思います。

後半で皆でいろんな深い話ができて良かったです。2歳の子どもであっても分からないと思わず必要な事はしっかりと伝えていきたいと思いました。



藤吉智治さん

これまで性教育を受けたことがほとんどなかったが、今回の講座を受けて、子供の目線で考えること、自分を大切にすること 相手を尊重することもすべて性教育につながることを学んだ。知らないことがあって当然なので、性教育は子供と一緒に学んでいけばよいのだと考えると、気持ちは楽になった。

倉田実和さん

女の子はこの色、こう！と言われて嫌だったりを思い出して、自分の子どもにはしないようにしようと改めて思いました。どんなふうに伝えていこうかと思っていた内容だったので、貴重な会でした。

私は子どものころから「自分は大切な存在だ」とは思えずに育ってきたので、今思えばとても無防備で危なっかしいことがたくさんありました。

変質者やつきまといによくあい、そのたびに親から「そんな帰りが遅いバイトしてるから」「そんな所で一人暮らしするから」と言われ、「心配なのよ」という言葉を隠れみのに、さんざん「あなたが悪い」というメッセージを受け取ってきました。通りすがりの人に「警察に通報しますか？」と聞かれた時も、なぜか遠慮して「大丈夫です」と断ったこともありました。

「自分は大切な存在だ」と思い、嫌な時は「NO」と言うのは当たり前のことなのですが、性教育の知識をたくさん得たとしても、それだけでいざという時「NO」と言えるのかと考えると、本当に難しいと思いました。

自分は大切な存在だとは、思おうとして思えるものでもなく、子どもの頃からの環境が本当に大切です。包括的性教育は自分を大切に思っていて生きていけるような「手段」として有効だと思いますが、最終的には自分の主体の確立があってこそそのものだと感じています。(藤吉)